

取組名	美川小・中学校児童生徒及び教職員や地域住民の防災意識等の高揚		
特徴	「美川水害（平成17年9月6日発生）」の教訓を生かし、美川小・中学校及び美川地域住民等で、「小中合同水害避難訓練」を行う。 美川地域の方々の協力を得ることで、児童生徒の防災に対する意識を高めることはもちろん、地域に対する感謝の気持ちや地域を大切にしている心も育てたい。		
学校名	岩国市立美川小学校、美川中学校	期日	平成28年6月6日（月）

1 わらい

- 水害時の非常事態を想定して、安全かつ迅速な児童生徒の避難誘導訓練を行うことにより、不測の事態の発生に備える。
- 美川小中学校が連携して、安全確保に対する教職員の意識を高めるとともに、不測の事態発生時の対策について確認する。
- 地域等との連携による災害避難訓練をあわせて開催し、児童生徒の危機回避能力の向上を図る。
- 校舎等が浸水することを想定し、避難方法や経路等を児童生徒と教職員が確認する。
- 防災出前授業を受けることにより、危機管理意識を高める。

2 概要

- 美川小中学校独自の避難基準を設け、危険水位を判断し、小中学校で連携を取り、緊急放送で対応する。
- 体育館前駐車場に児童生徒及び教職員が集合し、点呼を取り、安全を確認する。
- 徒歩通学の児童生徒・保護者が送り迎えする児童生徒・スクールバス利用児童生徒に分かれ、各教職員が指導したあと、下校方法を確認させる（美川小中学校災害対策マニュアルに準じる）。
- 校舎が水没することを想定し、小学1年生と6年生のペアを先頭に、後ろに2年生以降、最後尾に中学生が続いて、裏山への避難経路の確認を行った。その際、学校運営協議会委員や南桑警察官駐在所長や地域住民の方々にも御協力をいただいた。
- 避難訓練後、体育館で徳山高専の上先生による防災出前授業を受ける。



3 成果と今後に向けて

(1) 成果

- ① コミュニティ・スクールとして、小中学校合同による訓練の実施や、学校運営協議会委員及び地域住民等の協力を得ることによって、美川地区全体での危機管理意識の向上に貢献できた。
- ② 防災出前授業を受けることにより、自然災害が起こる仕組みを学び、児童生徒の危機管理意識を高めることができた。



(2) 課題

昨年実施した「非常食体験」に変えて、徳山高専の上先生による「防災出前授業」を実施した。児童生徒はいつ発生するか分からない自然災害に対する防災意識を高めることができた。今後も機会をつくって、「災害時を想定した避難訓練」や「防災出前授業」を実施することで、児童生徒や教職員等の危機管理意識が高まると考える。



取組名	保・小・地区合同避難訓練		
特徴	保育園・小学校・地域が連携した合同の訓練の実施		
学校名	小野保育園、宇部市立小野小学校	期日	平成28年11月28日(月)

1 ねらい

- 地震・土砂災害発生時における安全で迅速な避難方法を訓練する。また、災害の恐ろしさを知り、自分の生命は自分で守ろうとする態度を養う(小学校)。
- 災害時に、保育園・小学校・地域が連携して安全な行動がとれるよう、学校・地域の避難の仕方、連携の取り方を確認し合う(小学校)。
- 地域・学校・団体関係諸機関が連携した防災訓練を実施して、災害被害防止及び軽減と防災意識の高揚を図る(自主防災会)。

2 概要

(1) 想定

9:40 小野地区に震度6の地震が発生する。直後に小学校に隣接する旧小野中学校体育館東側斜面に土砂災害が発生する。

(2) 訓練

- 9:40 緊急地震速報
机の下に隠れた後、土砂災害発生のお知らせを受けグラウンドへ避難する。
- 9:45 地区消防団の指示で、第2避難場所へ移動する。
- 9:55 緊急避難場所受付訓練をする。
- 10:00 避難所開設訓練を体験する。
・段ボールの畳敷きや間仕切り設置体験
・段ボールベッドの設置や体験
- 10:25 小学校に帰校する。
- 10:35 土砂災害防災講座「土砂災害について」を受講する。
・宇部市都市整備部土木港湾課の講義
・土砂災害についての基礎知識
・土砂災害ハザードマップを使って学校周辺
・自宅付近、通学路等の危険箇所のチェック
- 11:25 訓練終了

(3) 事後指導

- 避難訓練についての反省をする。
・安全を考えて、黙って迅速に避難できたか。
・地域の方と協力して避難や避難所設置訓練ができたか。

3 成果と今後に向けて

保育園・小学校・地区が合同で避難訓練をすることで、避難の仕方や連携の方法を知ることができた。また、避難所開設のための段ボールの畳敷きや間仕切り、ベッドの作成を体験できたことは、児童には大きな意義のあるものとなった。

土砂災害防災講座では、タブレット端末を使用し、県のホームページから土砂災害ハザードマップをダウンロードし、学校周辺・自宅付近・通学路の危険性を把握したことで、防災意識がより高まった。家に帰り、家族で土砂災害時の避難場所・経路の確認について話し合うことを家庭学習とした。

今後も、地区の自主防災会と協力・連携して避難訓練を実施していくが、来年度は、児童が家庭にいることを前提とした日曜日に、校区全体の避難訓練を実施する予定である。



取組名	内日地区防災訓練		
特徴	小学校・中学校・保護者・地域が連携した防災訓練の実施		
学校名	下関市立内日小学校、内日中学校	期日	平成28年9月11日（日）

1 ねらい

- 地域と連携した小中合同の防災の取組により、生徒の災害対応能力を向上させるとともに、地域住民の防災意識の向上を図る。
- 生徒には避難所開設初期の動きを体験させて地域防災の担い手としての意識を高め、地域社会に貢献できる力を育成する。

2 概要

(1) 想定

13:28 菊川断層を震源に地震発生
震度7の揺れを観測

(2) 訓練

13:30 避難所開設指示ありと想定し、避難所開設訓練開始
(中学生が避難所の通路づくりや受付の設置等を行う)

13:40 避難者受付開始
・小学生や地域住民等の避難受付補助
(中学生が避難者カード記入補助、靴袋・水の配付等を行う)

・新聞紙でのスリッパ作り体験

14:35 避難終了、点呼。
受付班長から会長へ報告

14:40 消防署職員によるAED講習会

15:00 防災アドバイザーによる防災教室

・菊川断層について
・避難時の服装、防災グッズ等について

15:30 訓練終了

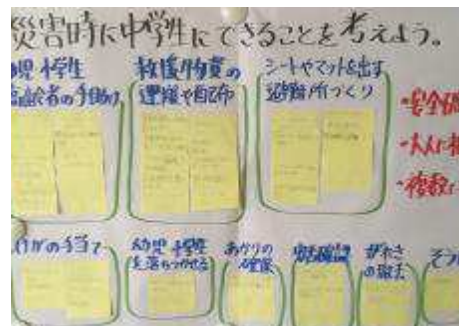
3 成果と今後に向けて

手探り状態ではあったが、初めて小学校・中学校・地域が連携して地区の防災訓練を実施でき、反省点や実際の災害時の課題が見えてきたことが大きな成果であった。

地域の方から生徒たちへ「中学生の力は絶大。大変頼もしい存在でした。」等の言葉をいただき、地域の担い手としての意識も高まった。

訓練の実施後には、学校運営協議会で地域と連携した防災訓練のあり方を考える「熟議」を実施し、次年度の実施へ向けた、具体的な話し合いがなされた。

今後も毎年開催することで、よりよい方法を探り、実効性のある訓練にしていきたい。



取組名	保・小・中合同による地震・津波対応避難訓練		
特徴	保育園・小学校・中学校が連携した訓練の実施		
学校名	阿武町立みどり保育園、 阿武小学校、阿武中学校	期日	平成28年11月17日(木)

1 ねらい

- 訓練を通して、園児・児童・生徒・教職員の防災意識を高める。
- 地震の情報や教職員の指示をもとに、園児、児童、生徒に校舎内から秩序正しく安全かつ迅速に避難する態度を養う。
- 中学生による避難誘導等、保小中連携（地域協育ネット）による効果的で実践的な避難訓練の在り方を探る。



2 概要

(1) 想定

- 9:50 ○日本海沖で地震発生
- 10:05 ○気象庁より山口県（日本海沿岸）に大津波警報発表



(2) 訓練

- 9:50 ○緊急地震速報受信、校内放送により地震発生のお知らせが完了後、小中学校グラウンドへ避難、点呼・報告完了【一次避難】
- みどり保育園、阿武中学校の避難、点呼・報告完了
- 10:10 ○大津波警報が発表され、萩市・阿武町に避難指示があったと想定
- 二次避難場所：阿武町体育センターへの避難を決定
- 二次避難場所への避難（中学生が園児・児童と手をつないで避難誘導、また、園児・児童の負傷者を背負って避難する）【二次避難】
- 10:15 ○阿武町体育センター2階ギャラリーへ全員避難し、点呼・報告完了（全員の無事を確認）
 - ・指導講評（阿武町役場：防災担当者）
 - ・校長講評
- 10:25 ○訓練終了



3 成果と今後に向けて

保育園、小学校、中学校による初めての合同避難訓練であったが、とても落ち着いて迅速に避難することができた。

特に二次避難では、避難場所のスペースや経路などの懸念もあったが、園児・児童・生徒一人ひとりの真剣さや、中学生による園児や低学年児童の避難誘導、負傷者（想定）の移動補助など、避難支援がしっかりと行われたため、混乱することなく無事に避難することができた。

今後は、より安全かつ迅速に避難できるように、保育園児へのさらなる避難支援の具体化や、保小中教職員の役割分担の明確化、合同引き渡し訓練、事前に日時を告げない避難訓練の実施等について三校種で協議していきたい。



取組名	小中高合同避難訓練（地震・津波想定）		
特徴	「自分の命は自分で守る」を合い言葉に、周防大島町久賀地区にある久賀小・中学校と周防大島高校久賀校舎（福祉専攻科）が、地震後の津波を想定した合同避難訓練を町消防防災担当者、山口県大島防災センター等の関係機関や地域の方と連携して実施している。		
学校名	山口県立周防大島高等学校久賀校舎 周防大島町立久賀小学校・久賀中学校	期日	平成28年11月29日（火）

1 ねらい

- 同じ地域で学ぶ小学生から高校生までの児童・生徒が非常災害時（地震・津波）に協力し、互いの生命を守るために連携して安全・迅速な避難行動ができる能力・態度を養う。
- 災害時における各学校の教職員の役割分担や連携協力体制を確認し、実際の災害時に有効に機能する防災ネットワークを構築する。
- コミュニティー・スクールとして、学校・家庭・地域が連携し「地域協育ネット」の仕組みを活かして地域のネットワークを形成することにより、地域での減災に取り組む契機とする。

2 概要

- **担当者会議**：小中高の防災担当者が計画、立案及び打合せ会を連携して行った。（2回実施）
- **地域との連携**：町消防防災担当者、山口県大島防災センター、柳井消防署（西部出張所）、柳井警察署、久賀シニアクラブ、小・中学校運営協議会等の地域関係機関と連携をとり、実施した。
※小・中学校、高等学校及び地域関係機関の防災ネットワークを構築した。

○合同避難訓練

- ・ **一次避難**：緊急地震速報発令（震度7（M9.0）の地震が発生と想定）
各校において教室等で安全確保及び必要な対応後グラウンドに避難
- ・ **二次避難**：大津波警報発令（3mから5mの津波が発生と想定）
久賀小学校1～4年生は周防大島高校久賀校舎4階へ避難
久賀小学校5～6年生は指定された高台へ避難
久賀中学校1～3年生は指定された高台へ避難
周防大島高校福祉専攻科生は周防大島高校久賀校舎4階へ避難

○防災研修：合同研修会（場所：山口県大島防災センター）

- ・ 「正しく恐れて命を守ろう」山口県大島防災センター 所長 星出 明 様
 - ・ 「非常時の備え（非常食等）」周防大島町消防防災班 主査 松岡 志朗 様
- ※2名の方から講話をいただき、児童生徒、教職員、地域の方の防災意識を高めた。

- **参加人員**：久賀小学校 生徒133名 教職員14名 地域17名
久賀中学校 生徒60名 教職員10名
周防大島高校生徒 5名 教職員 6名 地域 1名 総合計246名



一次避難 専攻科生



久賀小1～4年生



二次避難 校舎4階



二次避難 高台



地域の見守り隊の方



防災センターに集合



防災研修



非常食の配布

3 成果と今後に向けて

- 今年度で2回目の小中高合同避難訓練ではあったが、災害時に小中高が連携協力して避難する意識をもつことができた。また、地域関係機関と連携して実施することで、災害時の児童・生徒の避難場所や移動経路などを地域で確認することができ、非常時の安全な避難に役立つ訓練となった。
- 今後は、引き渡しシミュレーションやグループワークを取り入れた防災研修など更に関係機関や地域の方と連携して災害時に備える避難訓練としたい。また、合同の避難訓練が継続して実施できるよう日頃から小中高及び地域で連携した教育活動を展開していきたい。

取組名	小中高合同避難訓練		
特徴	河川氾濫を想定した避難訓練を、小・中学校及び高等学校合同で実施する。避難指示が発表され、広域避難場所である錦中学校に避難する途中、錦清流小学校の児童と合流し、低学年の手をつないで一緒に避難する。		
学校名	山口県立岩国高等学校広瀬分校 岩国市立錦清流小学校、錦中学校	期日	平成28年11月18日(金)

1 ねらい

河川氾濫を想定した避難訓練を小・中学校及び高等学校合同で実施する。自分の命を守ること、安全を確保することはもちろんであるが、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を育成することを目的とする。

2 概要

(1) 桜木地区に河川氾濫による避難指示が出たという放送を聞き、生徒玄関前で点呼後、広域避難場所である錦中学校に向けて出発した。



(2) 途中錦清流小学校で小学生と合流し、小学校低学年児童の手を引き、自他の安全を確保しながら避難場所である錦中学校に全員避難した。



(3) 中学生は、避難した小学生と高校生を、体育館へ誘導した。

(4) 体育館内で、小学生を小学校教諭に引き渡した。点呼、報告完了後、広瀬分校教頭、消防署職員より訓練に関する総括が行われた。

3 成果と今後に向けて

(1) 成果

小学生は緊急避難時における安全な行動を理解し、その場に応じた安全な対応をとることができた。

中学生は、避難した人たちを受け入れる訓練が、迅速かつ適切にできた。

また本校生徒にとっては、避難活動に協力することや他の人々への支援を通じて、安心安全な生活づくりのために自分は何ができるかということについて、考えるきっかけとなった。

昨年の反省を踏まえ、小中高の教職員全体の統括や自校以外の生徒の状況把握も迅速かつ的確にできた。



(2) 課題

この地区に避難指示が出た時は、地域の方々も錦中学校に避難に来るなど混雑が予想される。受け入れや誘導の仕方など受け入れ体制のより綿密な整備が求められる。

また、大規模な災害が起こったとき、児童生徒を帰宅させるのか、または待機させておくのか地域の道路事情や公共交通機関等を勘案して対応を検討しておかなければならない。

なお、この地域は高齢者の方が多いので、来年は自治会と連携協力し、地域住民や高齢者の方々も加わった合同避難訓練を実施したいと考えている。



取組名	安全マップの作成		
特徴	児童・保護者・地域が連携した安全マップづくり		
学校名	岩国市立玖珂中央小学校	期日	平成28年5月～8月

1 ねらい

- 子どもたちが、自らの命を守るために主体的に行動し、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を育成する。
- 児童・保護者・地域・教職員の安全意識の向上と危機対応力の強化を図る。

2 概要

(1) 準備

- ・ 4月中に昨年度までの校区内危険箇所についての確認を行う。
(これまでの蓄積を元にして)
- ・ 児童への聞き取り調査。

(2) 実施

- 4月11日 児童、1年生保護者、地区担当教員が通学路における危険箇所、子ども110番の家を確認する。
- 5月16日 昨年度までの実績を元に作成した、校区内の危険箇所を示す地図とその詳細を記入した一覧表を全家庭に配布する。
現時点で危険と思われる場所について家族で話し合い、マップ上に追加記入し、提出するように依頼する。
- 5月 下旬 校長、教頭で、提出された危険箇所について現地で確認を行う。
提出された危険箇所について、教職員で共通理解を図る。
- 6月 6日 PTA補導部メンバー10人で現地の視察を行う。状況を確認し、共通理解を図る。
- 6月 中旬 全家庭に新安全マップを配布する(学級でも確認)。
- 6月 下旬 地区懇談会で地域の方々に報告を行い、子どもたちへの注意喚起を依頼する。
- 7月15日 PTA補導部とみまもり隊の合同会議で、みまもり隊の方との共通理解を図る。
地区児童会で、PTA補導部の方から子どもたちに直接説明し、注意喚起を行う。
- 7月 下旬 危険箇所について市に報告を行う。
- 8月 月上旬 市の職員と危険箇所について現地で確認する。



3 成果と今後に向けて

子どもたちが日常生活を送る場の危険箇所の確認を、何段階ものプロセスを経ながら確認する作業を通して、児童・保護者・地域・教職員の安全意識の向上を図ることができた。特に家庭で保護者と話し合う時間をもつことや地区懇談会やみまもり隊の方々との会議で共有したことで、安全に対する意識が学校内だけにとどまらず、家庭・地域への広がりが見られた。

本校は、今年度末に閉校し隣接校に統合されるが、この蓄積を統合後の学校へも引き継いでいくことが重要である。

取組名	防犯交流会（あんしん・あんぜん・ありがとう集会）		
特徴	登下校見守り隊（スクールガードなど）の方との交流を実施し、感謝の気持ちを伝えるとともに安全意識の高揚を図る。また、警察も招いて登下校時の安全（特に不審者対応）について、共に学ぶ		
学校名	和木町立和木小学校	期日	平成28年6月8日（水）

1 ねらい

- 日頃からお世話になっている見守り隊（スクールガード等）の方との交流を図る。
- 児童の安全な登下校の意識や実践的態度を育成する。
- 児童、教職員、ボランティアの方が地域の防犯への関心や意識を高め、「安心・安全な町づくり」をめざす。

2 概要

（1）スクールガード・学校安全ボランティアの方との交流

- ・スクールガード・学校安全ボランティアの方の紹介
- ・スクールガード・学校安全ボランティアの方からのお話
普段の子どもたちの登下校について、お気づきを率直に話していただいた。
また、よい点や改善点について、具体的に話していただいた。
- ・児童代表からの御礼の言葉
- ・PTA会長のお話

（2）防犯訓練

- ・岩国警察署（生活安全部少年課、少年安全サーター）の方の指導による防犯指導をした。
DVD視聴を含み、具体的な防犯行動について学んだ。

（3）警察ボランティア、和木駐在所の方からのお話

- ・普段、子どもたちの様子を逐次見ていただいている和木駐在所の方から、交通安全全般及び登下校中のマナー等について話していただいた。



3 成果と今後に向けて

今回の交流会では、日頃から子どもたちを見守っていただいている地域の見守り隊（スクールガード登録者及び登下校ボランティアの方々）の紹介、スクールガードの方々からの直接の言葉をいただき児童やPTAからの感謝の気持ちも伝えた。

実際に顔を合わせての会を行うことで、子どもたちは、多くの地域の方々にお世話になっていることや、交通安全・登下校中のマナーの大切さなどについて、しっかりと考えることができた。

また、子どもと見守り隊の方が同じ場で防犯についての具体的な行動等を学ぶことができ、安全意識の更なる高揚につながった。

取組名	柳北地区合同防災訓練		
特徴	地域・保護者・学校との連携による合同の防災訓練		
学校名	柳井市立柳北小学校	期日	平成28年9月9日(金)

1 ねらい

柳北地区合同防災訓練を実施することによって、自分の命を守るための避難方法を確認したり日頃の準備や取組について振り返ったりして、互いの防災意識の高揚を図る。

2 概要

学校と柳北地区コミュニティ協議会との共催で、学校・保護者・地域が一体となり、柳北地区合同防災訓練を行った。学校は、その日を防災教育参観日とし、授業参観、避難訓練、火災発生時の放水体験や煙体験、非常食試食体験、学校防災アドバイザーによる講話、各自治会に分かれて避難場所の確認等を行った。



(1) 想定

日積断層において震度6強の直下型地震が発生し、柳井市柳北地区においても震度6弱の揺れを観測した。

(2) 内容

8:10～8:20 地域住民及び保護者への日程説明

8:30～9:00 授業参観（地域住民及び保護者と共に各教室で災害や防災について考える。）

9:00～9:10 休憩

9:10～ 地震発生
避難訓練

学校は学年ごと、地域住民及び保護者は自治会ごとに整列する

9:40～10:10 総括講評及び指導講話

10:15～10:30 自治会ごとに分かれて避難場所等の確認する

10:40～11:30 児童は、放水体験、煙体験、非常食試食体験を行う



3 成果と今後に向けて

熊本地震が発生し、災害への備えに対する関心が高まっている中、多くの方に防災訓練に参加いただき、各家庭での備えや、地域の防災について確認し合うよい機会となった。

近くに日積断層もあり、大規模災害が想定される中、防災に関わる授業や、放水体験や煙体験など、いろいろなことを学ぶことができ、災害に対する正しい知識・技能をもとに、的確に判断し、自らの命を守る行動を取るための意識の高揚に繋がった。

今後も、一人ひとりが防災に関する意識の向上を図るとともに災害発生時における初動体制等の訓練を実施していきたい。地域や保護者と共に防災訓練を実施していく場合、学校としての目的をしっかりと持ち、内容等の検討を更に進めていきたい。



取組名	安全に自転車に乗るために		
特徴	学級活動（危険予測学習）や社会科の学習を通して、校区内で自転車に乗る場合の危険箇所についての認識を深める。		
学校名	周防大島町立久賀小学校	期日	平成28年10月4・7日（火・金）
1 ねらい	<p>安全に自転車に乗るには単に技能を高めるだけでなく、その場所の状況などから起こる危険を予測することの重要性を理解し、その予測から判断し行動していく態度を育てる。</p>		
2 概要	<p>4年生児童は1学期に「交通安全教室」を行い、自転車の乗り方について学習した。</p> <p>児童は、その日を境に校区内の道路を自転車に乗ることができるようになるが、技能や交通ルールへの理解などの不安な点は残っている。特に教職員が不安に感じたことが、自転車に乗った時に「どんな危険が身近にあるのか」という意識が児童にほとんど無いことであった。そこで、自転車に乗るという視点で地域を見つめ直し、子どもたちの安全意識を高めたいと考えた。</p>		
(1) 社会科の学習①	<p>県警本部の見学をはじめ、自分たちの安全を守る人についての学習を行ったが、それにとどまらず、自分たちでできることはないかについて「やまぐちっ子学習プリント」を活用して考えた。</p>		
(2) 危険予測学習	<p>県教委作成の資料を使って、危険予測学習を行った。授業のまとめの時間に様々な場面の図を提示し、数多くの危険が考えられることを想起させた。</p>		
(3) 社会科の学習②	<p>(1)、(2)の学習を通して、校区内で自転車に乗る時に起こりそうな危険と場所を一人ひとりがワークシートに小さな地図としてまとめた。</p>		
(4) 安全マップ作成	<p>ワークシートをもとに2グループに分かれて「校区内自転車安全マップ」を作成した。個々の地図をまとめることで、一人ひとりの情報を学級全体で共有した。</p>		
3 成果と課題	<p>児童は、何気なく自転車に乗って通っていた道路にも数多くの危険が潜んでいることに気付くことができた。また、友達と視点を共有し、地域の道路について、更に深く考えることで安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>今後は保護者、地域の方、警察の方から児童の自転車の乗り方についての気付き、知らない危険箇所、アドバイスなどの話を聞く機会を設けて、より学習を深めていきたいと考える。</p>		



取組名	平成28年度第1回学校保健安全委員会（水の事故から児童を守るための講習）		
特徴	学校（児童・教員）・保護者・地域参加による実技講習会の実施		
学校名	平生町立佐賀小学校	期日	平成28年6月30日（木）

1 ねらい

- 専門家による実技指導により、正しい知識や技能を身に付け、水の事故等への対応力の向上を図る。
- 命を守るために主体的に行動し、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を育成する。



2 概要

講師：日本赤十字社 山口支部 安松 幸展 様

（1）講話

傷病者発見からの対応について、順を追って説明をしていただいた。

- ①傷病者発見→②周囲・全身の観察→
 ③意識の確認→④助けを呼ぶ（119番、AED）→
 ⑤呼吸の確認→⑥胸骨圧迫→⑦人工呼吸



（2）実技指導

講師に説明を交え演示していただいた後、保護者、地域の方、教員はグループに分かれて、マネキンとAEDトレーナーを使っての実技指導を受けた。小学4年生から6年生の児童28名は、心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくん」を用いた胸骨圧迫トレーニングを行った。



3 成果と今後に向けて

もしもの時に備え、どの参加者も真剣に講習に臨んでいた。

AEDの使い方を中心に止血法等についても説明をいただき、「丁寧で分かりやすい指導だった。」との感想が保護者から多く上がっていた。児童は、胸骨圧迫が思うように上手にできず、人命救助の難しさを感じるとともに、事故を起こさないようにしたいとの感想を多くもっていた。今回の取組は、対応力の向上につながったと思われるが、今後も同様の講習を続けることで、いざというときに実際に行動できる力につなげていきたいと考えている。また今回は、受講者数に対し、派遣していただいた講師の人数が少なかったため、講師による指導が行き届かない点があった。今後は、外部機関と連携し、より効果の高い取組にしていきたい。

取組名	シミュレーションを取り入れた危機管理演習		
特徴	具体的な場面における動き方の演習を行うことによる危機管理体制の構築		
学校名	下松市立下松小学校	期日	平成28年8月26日(金)

1 ねらい

- 緊急時における迅速かつ的確な対応をするための危機管理体制の充実を図る。
- AEDや心肺蘇生法など一次救命処置の技能の習得を図る。

2 概要

(1) 想定

給食の時間、フルーツヨーグルトを食べ終わった4年生児童が、口のかゆみから、喉の違和感、腹痛、動けないほどの腹痛を訴える。その後、咳が激しくなり、意識がもうろうとなり、意識がなくなっていくという食物アレルギー様症状を呈する。給食除去食対応は何もしていない。

(2) 演習の実際

- ・ 校内巡視中の生徒指導主任が通りかかり異変に気づく。状況の確認をするとともに、それを学年主任に伝える。
- ・ 学年主任は、職員室への連絡、記録、AED持参などの指示を出す。
- ・ 連絡を受けた管理職は、携帯電話を教務主任にもたせ、現場の状況の把握を指示するとともに、救急車の要請、記録係、保護者への連絡など教職員に役割を割り振る。
- ・ 校内放送で「4年△組で保健の会議です。」と異変があったことを教職員に知らせる。
- ・ 4年生の教室においては、一次救命処置、児童管理などそれぞれの教職員が自分の役割を果たす。
- ・ 救急車が到着し、担当教職員が入口を知らせ教室まで案内して演習の終了とした。



(3) 振り返り

児童に何か異変があった場合、それを早く正確に伝えることや迅速な対応をすることの難しさと大切さを改めて確認することができた。現場では、学年主任が中心となりAEDの持参係、児童管理係、連絡係、記録係などしっかり役割分担を行うことができていた。これは事前に役割を確認した上で演習を行ったからである。全教室に緊急時のマニュアルが用意されているので、普段から教職員が緊急時の対応について考えておくことの必要性を感じた。

演習後の振り返りにおいては、該当教室の児童だけでなく、周辺教室の児童対応の難しさが浮き彫りになった。そのための方策としては、できるだけ多くの教職員を集める方法について今後検討する余地が感じられた。また、救急車や保護者へ連絡するタイミングについても少し遅くなったので、できるだけ一報を出す必要性があった。

今回は給食除去食対応のない児童の食物アレルギー反応についての演習であったが、改めて、児童の異変への迅速な対応の難しさと大切さについて実感することができた。

(4) 一次救命処置の演習

AEDの使用方法和心肺蘇生について演習を行った。教職員については年に1回は研修を行うようにしている。繰り返し行うことによって緊急時において適切に対応できるようになると考えるからである。AEDの使用や心肺蘇生について救急救命士の指導により全員が練習を行うことができた。



(5) 専門家（スクールガード・アドバイザー、救急救命士）からの指導

- 現場と本部の情報共有の大切さ（携帯電話で連絡を取り続ける。）
- 119番通報と保護者への連絡のタイミング（できるだけ早くする。保護者へは簡単な情報を先に知らせ、安全に学校に来てもらう。）
- 救急車に同乗するために必要なものの用意（児童の名前、住所、生年月日、電話番号などを救急隊員に知らせるため、その準備が必要である。）
- 非常時には優先順位を付けてトップダウンで行う。



3 成果と今後に向けて

危機管理については、このようなシミュレーションを行うことで、教職員が状況を考え具体的な対応の仕方を考える研修が大切となる。演習の中では、教職員との連絡方法、記録方法及び児童管理の仕方など、教職員がこれまでに研修したことを生かし、よりよい方法を選択することができていた。黒板に記録する方法は、その場にいる教職員が共通に活用することができ、効果的な方法となっていた。



しかし、児童管理や教職員への応援要請などについては、今後再考の余地が見られた。緊急事態だからこそ落ち着いて、緊急時のマニュアルを活用し対応することが大切となる。

安心・安全な学校づくりにおいて教職員の危機対応能力を高めることは重要な課題となる。具体的な場面への対処の仕方の積み重ねは緊急時における適切な対応につながってくるので、今後ともこの積み重ねを大切にしていきたい。

取組名	地震に伴う火災避難訓練		
特徴	不明児童の救出や校内の消火栓を使った消火訓練の実施		
学校名	下松市立久保小学校	期日	平成28年11月11日(金)

1 ねらい

- 児童一人ひとりが避難の仕方を知り、臨機応変かつ安全に避難ができるようにする。
- 教職員は、適切な避難経路による避難場所への誘導や通報及び報告などが安全かつ円滑・迅速にできるようにする。

2 概要

(1) 想定

- 10:35 地震発生の効果音や地震放送
 - ・下松市で震度3強の揺れを観測
- 10:38 理科室から出火
 - ・下松市消防本部へ119番通報

(2) 訓練

- 10:35 緊急地震速報
 - 机の下に隠れた後、運動場へ移動
- 10:45 点呼・報告後逃げ遅れの児童1名判明
 - ・駆け付けた消防隊に逃げ遅れの児童がいる旨報告
 - ・全職員を集め情報収集後、消防隊員による救出開始
- 10:50 不明児童救出
 - ・消防隊員や養護教諭・担任による健康調査
 - ・無事を確認後全職員・児童らに報告
- 10:55 運動場での消火活動
 - ・校内の消火栓や消火器を使っての自主消火
 - ・消防車による放水による消火
- 11:15 訓練の振り返り
 - ・消防隊員からの助言、受指導
 - ・校長講評
- 11:20 訓練終了
 - ・教室に戻り、担任による事後指導
 - ・アンケートによる振り返り



【運動場へ移動】



【消防隊員から養護教諭へ不明児童の引き渡し】



【教職員によるの消火栓からの放水】

3 成果と課題

不明児童がいるという設定により、各々がどのように避難し動けばよいのか、救出に必要な情報は何か等を考えることができ、児童や教職員の当事者意識や危機意識が高まった。

また、消火器や消火栓を使っての継続的な自主消火訓練により、防火器具活用への苦手意識が年々低くなり、防災意識が高まってきていることは訓練の積み重ねの成果といえよう。

スクールガード・アドバイザーや自治会の代表の方2名(事前に計画書で打合せをし、アンケートにも回答していただいた)にも実際の訓練に同席していただき、多くの気付きや助言をいただけたことは、地域と連携した本格的な防災訓練に向けての大きな足がかりとなった。

今後も機会を見付け、いろいろな場面を想定した訓練を積み重ねながら、個々の防災対応能力の向上に努めていきたい。



【専門家と自治会代表による訓練の観察】

取 組 名	学校保健安全委員会の開催		
特 徴	児童、保護者、教職員参加による体験的な学校保健安全委員会実施		
学 校 名	下松市立豊井小学校	期 日	平成28年10月13日（日）

1 ねらい

医師によるAED講習を親子で受講し、命の大切さを体験的に感じるとともに、周囲の人への安全に貢献しようとする力を育成する。

2 概 要

(1) 企画

P T A保体部、保健主任、養護教諭が参加し、本年度の学校保健安全委員会の企画を練った。

保護者から、

- ・命の大切さを感じることができる機会にしたい
 - ・児童にAED講習の機会を設定できないか。
 - ・親子で参加できる内容にしたい。
 - ・安全に係る体験的な活動がよい。等の意見が出た。
- こうした意見を踏まえ、親子でAED講習、医療現場の講師招へいに決定する



(2) 開催までの流れ

- ・講師への依頼・連絡（養護教諭）
- ・実施計画の提案（保健主任）
- ・保護者への案内（教頭）



(3) 学校保健安全委員会の開催

会の進行（保健主任）

講習会・・・講師：徳山中央病院 宮内善豊 先生

- ・AEDで救われる命
- ・AEDの使い方
- ・AEDを使う体験活動

児童は、縦割り班に分かれ6グループで実施。

保護者は大人だけのグループで実施。

「やってみる」ことを大切にしたい指導。

繰り返し行うことで、実践力を付ける。

お礼のあいさつ（P T A保体部長）



(4) 参加者の感想

- 最後まであきらめないことと、人の助け方を学びました。電気ショックは、2000ボルトの電流が通ることが分かりました。（4年生）
- 初めてAEDを使ったけれど、とても分かりやすく、機器のいうとおりにやるとちゃんとできました。もし使うことがあったら、今日習ったことをいかせるようにしたいです。（5年生）
- 親子で心肺蘇生について学ぶことができた貴重な機会でした。家で、「お父さんは、本当に使ったことがあるけれど、僕もいざというときには、人を助けることができるんだね」と話していました。（保護者）

3 成果と今後に向けて

本校では、毎年AED講習会を開催している。保護者、教職員がそれぞれ研修する機会を設定し、実施してきた。本年度初めて、親子で一緒に「命を救う方法」を学ぶことができたことは、有意義であった。

今後は、参加対象を1年生から6年生の全校児童に広げるとともに、毎年取り組むことができるよう既に実施していた講習の時期に児童の参加も計画していきたいと考える。

取組名	通学路（小俣交差点地下道非常警報の点検）の行政、地域と連携した点検		
特徴	地域、国土交通省、小中学校との連携		
学校名	防府市立大道小学校	期日	平成28年7月9日（土）

1 ねらい

- 小俣交差点地下道の非常警報が一般に周知されていないことを踏まえ、少しでも認知してもらうことをねらいとして実施する。
- 行政、地域、小中学校との連携を進める。

2 概要

- 大道地区まちづくり推進協議会と公民館のはたらきかけで、小俣地下道を利用する小学校の児童及び保護者、中学校生徒、地域の関係者を対象に実施した。
- 国土交通省報告度維持出張所の所長並びに管理業者の指導の下に、警報ボタンを押したときの赤色灯のようすや警報ベルの鳴動、電光掲示板の内容等を確認した。



3 成果と今後に向けて

- 地域からのはたらきかけ（大道公民館母親クラブ）がきっかけで、地域と行政と学校の連携をもって実現できた。（地域連携の深化）
- 小中学生にとっては、緊急時の安全対策の一助となった。
- 小俣地下道非常警報の点検の内容は、大道小学校「コムスクだより」及び「大道公民館だより」にてすべての地域に回覧又は配布した。



小俣地下道非常警報の点検

地下道内 事件発生



7月9日（土）11:50より「小俣地下道非常警報施設」の点検が行われました。地下道を通る児童や保護者も参加しました。

押しボタン式通報装置は全部で17か所設置してあります。これを押すと警報ベルが鳴り響き、外に設置してある2か所の警報掲示板に「地下道内 事件発生（助けて！）」と表示されます。同時に外に6か所ある赤色回転灯が点滅します。

**地下道を通るときは確認してくださいね。
事件が発生した時には警察に連絡をお願いします。**

大道小学校
コミュニティ・スクールだより」

取組名	緊急時児童引き渡し訓練		
特徴	人権教育参観日に合わせて実施。授業参観ののち、教育講演会を企画し講演会終了後、保護者に引き渡し訓練の趣旨や実施方法を説明し、引き渡しを行った。当日は、育友会（PTA）や学校運営協議委員の方々にも協力を仰ぎ、実施した。		
学校名	山陽小野田市立須恵小学校	期日	平成28年9月27日（火）

1 ねらい

校区内や近隣校区での凶悪事件の発生や自然災害等の発生により、下校の安全が十分に確保できない状況を想定した引き渡し訓練を実施することにより、子どもたちを安全かつ迅速に保護者へ引き渡す手順を確認するとともに、今後の課題を確認し緊急時の下校方法についての理解をより確かなものにする。

2 概要

（保護者への説明）

- 9月1日付の人権参観日案内にあわせて、緊急時の下校システム（状況に合わせて3段階を想定）の説明と「緊急時下校システムレベル3」に該当する引き渡し訓練の概略を示した。あわせて、訓練の際に引き取りに来る大人3名を引き取り登録者として書いていただく『緊急時引き取り者登録票』を配付し記入後提出を依頼した。
- 9月21日付で『緊急時下校の児童引き渡し訓練について』を配付し、当日の保護者・児童の具体的な動きをより詳しく説明した。
- 9月27日、引き渡し訓練当日は、人権教育講演会終了後、体育館にて引き渡し訓練の趣旨や実施方法を説明した。

（関係機関との連携）

- 9月初旬、児童クラブ（留守家庭学級）に引き渡し訓練について説明した。児童クラブからの気付きを受け、9月14日付で引き渡し訓練当日に児童クラブに行く児童と保護者と一緒に帰宅する児童を把握するためのプリント配付。
- 9月18日付で学校運営協議委員の方々にも案内を配付すると同時に、訓練当日の協力を依頼した。

（当日の様子）

- 児童数440名（うち欠席5名）のうち364名（全校児童の83.6%）が保護者に引き取られた。引き取りは全校児童を体育館に集めて実施した。開始直後は、多くの保護者が殺到し混雑も生じたが時間が経つにつれ、保護者も教職員も流れがつかめ、訓練開始から20分程度で予定の95%以上の家庭が児童を引き取り下校された。大きな混乱もなく訓練は無事終了した。また、車で来校する保護者が多いためグラウンドを駐車場にして、下校時は混雑を回避するため車の通行を一方通行に制限した。正門は入る車だけにし、グラウンドを横切り裏門（東門）を出口にした。育友会役員や学校運営協議会委員の方々に交通整理に当たっていただいたおかげで、車の移動もスムーズとなり混乱を防ぐことができた。



3 成果と今後に向けて

大きな混乱もなく、保護者からも万が一の時の対応が確認でき、安心したなどの声が聞かれた。

（保護者）

- 事前にプリントや教育講演会終了後で訓練の流れについて説明した。体育館内でも一方通行の表示を用意したので、体育館内での保護者の流れも昨年に比べスムーズであった。

（学校）

- 教職員総動員で訓練に当たったが、実際には交通整理などはボランティアに頼る状況であった。有事の際、教職員が数名不在の状況も十分考えられ、対応できる教職員をもう少し制限した状況での訓練の必要性も感じた。

取組名	緊急時児童引き渡し訓練		
特徴	自然災害や事件発生等の緊急時、児童を確実に保護者に引き渡すための訓練を、学校運営協議会や自治会等の地域と連携して実施した。		
学校名	萩市立明倫小学校	期日	平成28年9月6日(火)

1 ねらい

大規模災害や凶悪事件等が発生した際、児童を安全かつ確実に保護者に引き渡すための、緊急時下校システムを確立させる。

2 概要

(1) 事前の取組

- 児童引き渡し保護者用マニュアル及び引き渡しカードの配付及びカードの回収(4月)
- 緊急時児童引き渡し訓練の実施について周知の徹底(8月)
 - ①学校運営協議会にて周知
 - ②PTA運営委員会にて周知
 - ③夏季休業中の奉仕作業にて保護者に周知するとともに、メール登録者へメール配信
 - ④メール登録について未登録保護者に再度依頼
- 萩警察署に実施文書の配付並びに概要説明(8月)
- 校区内自治会長に実施文書の配付並びに概要説明(8月)
 - ※学校運営協議会長と同行

(2) 訓練当日の流れ

- 14:50 【想定】大規模な自然災害発生連絡
- 14:55 対策本部設置
- 15:00 学年主任の招集
 - ・引き渡しによる下校を実施
 - ・役割分担、動き等の確認、伝達
- 15:10 保護者への緊急メール配信

大規模な自然災害発生。本日、15:40から児童の引き渡しを行います。各家庭でお迎えをお願いします。
なお、運動場を駐車場とします。

- 15:20 児童の運動場への移動開始
- 15:36 児童引き渡し開始
 - ※引き渡しカードによる確認の徹底
- 16:30 迎えに来られていない家庭へ連絡
- 16:45 全児童引き渡し完了
 - ※保護者へお礼のメール配信
 - ※市教委報告

3 成果と今後に向けて

本校で初めて実施した「緊急時児童引き渡し訓練」であったが、短時間のうちにスムーズに保護者への引き渡しを行うことができました。今回は、保護者、学校共に引き渡しの手順を確認する訓練として、引き渡しカードに登録された方の迎えを依頼した。事前に、保護者からの申し出もあったが、様々な場面での周知の徹底を図ったことで保護者の理解と協力を得ることができた。

今後は、引き渡し方法の工夫(体育館での引き渡し)や幼保小中の連携等、より実効性のあるマニュアルへと見直し、地域全体で取り組む訓練へとつなげていきたい。



取組名	総合防災訓練		
特徴	地震とそれに伴う津波・高潮に対する避難訓練及び、児童の引渡し訓練 防災関係機関相互の連携強化		
学校名	長門市立仙崎小学校	期日	平成28年6月12日(日)

1 ねらい

地震とそれに伴う津波・高潮に対する避難訓練並びに、児童の保護者への引渡し訓練を実施し、災害発生時の対応方法の習得と防災意識の高揚、防災関係機関相互の連携強化を図ることを目的とする。

2 概要

(1) 想定

平成28年6月12日(日)午前9時30分、福岡県宗像市沖の玄界灘を震源とする地震が発生し、長門市において最大震度5強を観測した。地震の規模はマグニチュード7.6。午前9時40分に山口県日本海沿岸に津波警報(校内放送)が発表され、予想される津波の高さは3mとする。

この地震により、道路が陥没したり、ひび割れが起きたりした。また、ブロック塀が倒れたりして安全に通行できない状況となった。

(2) 訓練当日(6月12日)

①地震発生並びに津波対応避難訓練(一次避難・二次避難)

児童・保護者はシェイクアウトを行い、揺れが収まったら運動場に避難した。その後津波に対する二次避難の放送を聞き、校舎2階と3階に避難をした。



津波対応避難訓練

②防災に関する学習・体験

体育館において児童・保護者全員で防災についての講演を、市危機管理課職員及び市消防署員から聞いた。

その後、学年ごとに防災体験学習(消火器使用方法・ロープワーク・担架作り・間仕切り体験・AED)を行い、自衛隊や消防・警察車両等の見学をした。



防災に関する学習

③引渡し訓練・下校

保護者は、体育館で待機し、放送の指示で児童を体育館に移動させ、保護者へ引き渡した。保護者は児童と一緒に、通学路の安全点検をしながら、下校した。

④緊急連絡網の確認

下校後、地区評議員が、地区全員の帰宅を地区連絡網確認し、学校に報告をした。



間仕切り体験

(3) 事後指導

避難訓練実施後、各学級でふり返しカードをもとに避難の知識の整理と個々の避難の際の態度等を振り返った。

3 成果と今後に向けて

- ・(児童の感想から)災害が起きたら、みんなで助け合わないといけない。地震のときは、津波があるかも知れないから、高いところに逃げる。
- ・(保護者の感想から)子どもたちは、きちんと避難・防災訓練ができていたのに、保護者の緊張感が不足し反省した。こうした防災訓練を通じて、実際に災害があった場合、家族がバラバラにならないための決め事をし、訓練の大切さを再確認できた。



AED体験

いつ発生するか分からない自然災害に対して、今回の訓練を経験したことで、自らがとるべき行動について振り返ることができたことが、大きな成果となった。また、防災の関係機関と連携することができたことも大変な成果である。引渡し訓練の方法等、これからの課題をとらえることができたので、来年度は、改善策を考え実行していくことで、教職員及び児童、保護者の危機対応能力の向上を図りたい。



引渡し訓練・下校

取組名	不審者に対応した避難訓練		
特徴	警察と連携した不審者対応避難訓練及び護身術の習得		
学校名	田布施町立田布施中学校	期日	平成28年7月14日(木)

1 ねらい

- 不審者侵入など、緊急時における生徒の安全確保のための訓練を実施し、校内組織体制を確認するとともに、侵入者への対応の方法や牽制方法の習得をめざす。
- 教職員及び生徒の安全管理意識の啓発を図る。
- 警察との連携体制を確認するとともに、緊急の際に自分の身を自分で守るための技能・知識を警察の指導により生徒に習得させる。

2 概要

(1) 想定

14:20 6校時授業中に1年1組教室付近に不審と思われる人物が侵入する。(不審者役は警察官に依頼した。)



(2) 訓練

14:20 1年1組の授業担当教員が気付き対応する。

※留意点

- ・生徒に近付かせないような立ち位置をとる。
- ・距離をとりつつ、興奮させないよう穏やかな対話を心がける。

14:21 1年1組内で、不審者から遠い位置にいる生徒が教室を出て、隣接の教室へ不審者の侵入を知らせる。

14:22 隣接教室の担当教員が不審者の元に駆けつけ複数対応をとる。

14:23 隣接教室の担当教員1名は、職員室に駆け込み、不審者侵入を知らせる。

14:24 職員室で連絡を受けた教頭が、職員に校内放送と警察への通報を指示する。
放送内容「1年1組の〇〇先生、お電話が入っております。体育館アリーナ側のお電話をお取りください。」

- ##### ※放送内容の意味
- ・1年1組(不審者侵入場所)
 - ・〇〇先生(対応している教員)
 - ・体育館アリーナ(避難場所)

14:25 全校生徒が教員の指示を受けて、体育館アリーナへ避難を開始する。

教頭の指示を受けた教員数名が職員室から不審者のいる現場へ移動する(サスマタ持参)→警察の到着まで現場を維持し生徒のいる方へ移動させない。サスマタやイス等で距離を近づかせない。

14:30 生徒の避難が完了する。その後、警察が到着し、犯人の身柄を確保する。



避難完了後、警察の指導により二人1組となり簡易護身術講習を実施する。

3 成果と今後に向けて

今回の訓練では、生徒はざわつくことなく、淡々と避難を完了することができた。また、簡単な護身術を学ぶことができた。ただし、あくまでも訓練であるということが前提であったので、あってはならないことだが、実際に事態が起こったときに、いかに落ち着いて、全体が混乱せずに対応できるかは量り知ることにはできない。今後に向けては、不審者はいつ何どき、どのような状況で侵入してくるか分からないという特性から、教職員のより高い危機対応能力を養う必要がある。そのために、不審者の侵入状況をあらかじめ知らされていない条件下での、実際の場面に即した実効性のある訓練実施などが必要となってくる。また、生徒にも切迫した状況を感じさせるため、不審者侵入時の状況をビデオ撮影し、後の指導時に見せるなどの工夫をこらした訓練の実施を考えている。

教職員は、生徒の命も自分の命も絶対に守るということを常に念頭に、平穏時こそ不測の事態に対する感覚を磨く、教職員の研修を実践していきたい。

取組名	「自分たちの地域は自分たちで守ろう！」 ～地域との合同防災訓練（避難所開設・初期運営）		
特徴	中学生による避難所の開設及び初期運営		
学校名	周南市立須々万中学校	期日	平成28年9月1日（木）

1 ねらい

地域と学校が連携・連動して防災訓練を実施し、防災の担い手として中学生の育成を図るとともに、地域全体の防災活動の活性化を図る。

2 概要

(1) 取組の流れ

県の「ジュニア防災活動促進事業」と本校が2年前から取り組んでいる東日本大震災復興支援「心を繋ぐ、ひまわりプロジェクト」を連動させ、防災教育の一層の活性化を図ることを目的に活動を展開した。本校独自の取組に加え、地域との合同研修等を経て、本校体育館を避難所とする地域との合同防災訓練を実施することとなった。

(2) 当日の流れ

① 想定

- 11:20 須々万地域を震源にマグニチュード8、震度6強の地震発生
- 11:25 周南市より避難所開設依頼

② 訓練

- 11:21 避難開始放送
- 11:23 避難完了
- 11:25 周南市より避難所開設の依頼
- 11:27 体育館に移動
- 11:30 避難所開設の準備開始
- 11:40 避難所運営本部会議
避難所受付開始
避難所初期運営
- 12:15 避難所の運営を自治会に引き継ぎ
- 12:35 訓練終了

3 成果と今後に向けて

(1) 成果

初めての試みで、教員も生徒も地域の方も戸惑うことが多かったが、自然災害の多い昨今、現実味のある訓練で、参加者すべてが積極的に取り組むことができた。特に、中学生が積極的に活動する姿は、少子高齢化の進む中山間地域に位置する本校にとっては頼もしく感じられた。地域の方も、研修の回数を重ねるごとに参加が増え、特に今回の避難所開設の試みには関心が高く、多くの参加者があった。将来何らかの形で災害時には中学生も地域住民にも役立つのではないかとと思われる。そして、避難所となる学校の教員にも貴重な経験となった。

(2) 課題

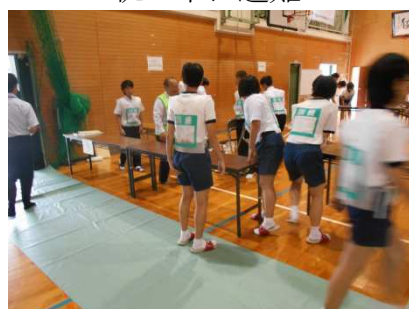
地域との合同の取組はなかなか実施が難しいが、今回実施してみて、どこの学校・地域においても積極的に行うべきものだと感じた。また、本校区においても、今年限りの単発の事業・訓練とせず、形を変えた防災訓練を地域と合同で実施していくことの必要性も感じた。



ひまわりプロジェクト



机の下に避難



避難所開設開始



避難者到着、中学生が受付



避難所の運営を地域に引継

取組名	下校時の見守り清掃活動・危険箇所調べ		
特徴	CS活動を通じた下校時の危険箇所調べの実施		
学校名	光市立島田中学校	期日	平成28年10月12日(水)

1 ねらい

- 下校時の見守り活動を通して、生徒たちの交通安全状況を知るとともにあいさつの交わせる関係性をもつ。
- 地域住民と生徒たちが一体となって交通安全事故防止のための具体的な危険箇所を知る。
- 生徒たちの道徳心を高め、地域や小学生の交通安全の良きお手本となるようにする。

2 概要

(1) 日程 16:00~17:00 生徒の下校に合わせてA~Cのルートに分かれて活動

(2) ルート

<Aルート 上島田・周防方面>

① 県道上島田直線道路



ガードレールがなく、路側帯横も非常に狭い中、自転車で登校しなければならない。

② 県道上島田ミコー前信号



横断歩道付近が狭く、斜め横断になりやすい。



歩道が狭く、さらに段差があるため、大変危険である。



歩道は広がっているが、石やガラス等が落ちておりつまづく可能性がある。



<Bルート 島田方面>

① 田中鋼材前坂道



車が勢いよく坂道を降りて来るため、歩行者と接触する可能性が高い。

② 領家台入り口対面の歩道



歩道が狭く、坂になっているため、自転車がスピードを上げることが多い。雑草が道にはみ出ており、見通しが悪い。

<Cルート 三井方面>

① 学校下～林踏切



道が狭いため、生徒が広がって歩行すると危険である。下校時は西日が当たり、前方からの対向車が見えにくい。山側の木が茂り、昼間も暗く、防犯灯もない。また、線路沿いのガードレールが低く、たいへん危険である。

② 三井セブンイレブン前



車の出入り口が多いため、いろいろな場所から車が出入りするため危険である。

3 成果と今後に向けて

島田中学校区の通学区域は、交通量も多く、生徒たちの登下校時に多くの危険箇所がある。

そのため、生徒たちの交通安全意識や判断力を高める必要があるとともに、危険箇所を調べ、知り、どういった対応をとっていくかを具体的に考え、行動化していく必要がある。また、このことを学校だけで取り組むのではなく、地域を巻き込んで交通安全意識を高めていくと同時に、大人たちが危険なことを取り除いていくのではなく、生徒たち自身が主体的に危険に気付き自らを守っていく力を育てる必要があると感じる。

このようなことから本校では、CS活動の一環として下校時の交通安全の見守りや通学路の環境美化活動を生徒のテスト週間中に行い、合わせて本校の交通事情や校区内での交通事故等が多発している状況から危険箇所を洗い出し、今後の指導にいかすとともに通学路安全マップ等をさらに具体化したものにバージョンアップしていくこととしたい。

取組名	「危険予測学習（KYT）資料集」を利用した安全学習		
特徴	長門警察署より「スクールサイクルリーダー」に委嘱された生徒が中心となって、夏休みを安心・安全に過ごすためのKYTを全校生徒を対象に行った。教材として「危険予測学習（KYT）資料集」を使用している。		
学校名	長門市立深川中学校	期日	平成28年7月20日（水）

1 ねらい

「危険予測学習（KYT）資料集」より、スクールサイクルリーダーが交通安全教育と防犯教育のKYTを一つずつ選出し、それをもとにこうした危険から身を守るにはどうしたよいかを全校生徒で考え、話し合うことを通して、生徒が安心・安全な生活を送ることをねらいとしている。

2 概要

(1) 交通安全教育のKYT

スクールサイクルリーダーより、「道路の向こう側の友達のところに行こうとして、停車している車の間をすり抜けて道路を横断しようとしています。この後、どのような危険が考えられますか。」と全校生徒に問いかける。生徒に挙手させ、危険と予測される行動を確認し、安全な生活を過ごすためのポイントを全校生徒で共有する。

【生徒の主な意見】

- ・ 車が通る可能性があり、子どもが事故にあうかもしれない。
- ・ 車からは、自転車の子どもは見えにくい。

(2) 防犯教育のKYT

スクールサイクルリーダーより、「一人で登下校しているときに、知らない人から声をかけられている状況です。このような場面では、どのようなことに気を付けないといけないでしょうか。」と全校生徒に問いかける。生徒に挙手させ、どのような行動をとれば安全かについて、ポイントを全校生徒で共有する。

【生徒の主な意見】

- ・ すぐに逃げられるように、近くに寄らない。
- ・ 何かあった時には、大声で助けを呼ぶ。

3 成果と課題

【成果】

- ・ スクールサイクルリーダーが進行することで、生徒は危険な状況を一層身近に感じることができ、自分たちのこととして捉えることができた。

【課題】

- ・ 実施回数を増やし、様々な状況に対応できるように学習を広げたい。
- ・ このような活動の様子を地域に発信し、地域ぐるみで生徒の安全確保に取り組みたい。



取組名	教職員安全研修		
特徴	緊急時における教職員の危機対応への関心を高める。		
学校名	山口県立響高等学校	期日	平成28年5月16日(月)

1 ねらい

緊急時における教職員の対応をはじめとした知識の確認を行う。

2 概要

(1) 日時 平成28年5月16日(月) 13時30分～14時30分

(2) 場所 本校会議室

(3) 内容

a 安全に関する簡単なテスト

《資料1》

- ① 職員室にある消火器の場所はどこにありますか。
- ② 本校における避難器具はいくつありますか。
- ③ 響高校での非常招集をかける際の校内放送はどのような放送が流れますか。
- ④ 緊急時生徒の負傷や病気により病院に搬送するときのカードはどのように使いますか。
- ⑤ 避難時に全校生徒の一覧を準備するのは誰ですか。
- ⑥ 緊急時学校安全管理組織は大きく三つに分かれますが、本部総務班(本部)の他は何班ですか。
- ⑦ 今年度、本校生徒で、エピペンを所持しているのは何人ですか。
- ⑧ 津波発生時の避難場所はどこですか。
- ⑨ 「いかのおすし」という言葉にはどんな意味がありますか。

b 校内の防火・防災施設設備の確認

c 不審者対応の研修の振り返り

《資料2》

- ① いかのおすしが大切
- ② 逃げる美学
- ③ 第一撃が重要
- ④ 逮捕術(護身術)
- ⑤ さすまた

d ケーススタディを通じて

《資料3》

- ① 深夜に交通死亡事故が発生した
- ② 下校中に学校のすぐ近くで山陰本線が衝突脱線事故を起こす。生徒の安否は不明だが・・・
- ③ 水泳の授業中、事故発生の連絡が保健室に入った。
- ④ 野球場での応援中、倒れる生徒が続出した。熱中症が疑われる。
- ⑤ 午前7時30分、校内で生徒の自殺体が発見された。
- ⑥ 校内に不審者が侵入し、校舎の教室に立てこもった。まだ騒ぎにはなっていない。
- ⑦ 環境美化の作業中、数名の生徒がスズメバチに噛まれ重篤な症状になった。

e 緊急事態発生時の県への報告

《資料4》下記の諸機関の番号を確認後、事務室に掲示した。

校長 教頭 事務長 豊浦西消防署 小串警察署 セコム 豊浦体育センター
 学校安全・体育課 学校安全管理班(事件・事故、生徒被災、問題行動等)
 教育政策課 施設班(学校施設災害) 福利・給付班(職員住宅災害)
 高校教育課普通教育班(教科書被災) 学校管理班(職員被災) 共済山口支部給付班(共済組合被災)

3 成果と今後に向けて

耐震工事から職員棟建設となり、防火設備の設置場所が変わった。また教職員の転勤や異動に伴って、本校の安全管理組織編成が頻繁に変わることが多い。そのため毎年のように確認をしたいところではあるが、今年度は特に力を入れて研修を実施した。特にケーススタディでは、回数を重ねるたびに職員からの意見が多く出てきたことがよかったといえる。1年に1度はこういった研修を取り入れると良いと思った。さらに実践的な訓練として、生徒の保護者への受け渡し、病院搬送、衛星携帯電話の取り扱い等の研修も取り入れたい。

取組名	校内安全研修		
特徴	教職員がグループで校内の危険箇所を点検し、共通理解と危機管理意識を高める		
学校名	山口県立岩国総合支援学校	期日	平成28年5月25日(水)

1 ねらい

「学校づくりビジョン」のチャレンジ目標「安心・安全な学校づくり」を達成するために、校内の施設や設備等で危険箇所を教職員で発見、確認、情報を共有することで、けがや危険からの回避を目的とし、教職員の危機管理意識の向上を図る。さらに、その情報を事務部で取り上げていただき、施設改善の一助とする。また、研修科と保健体育科のタイアップ研修として取り組むことにより、分掌間の連携強化を図る。

2 概要

- (1) **全体説明** 15:30～
 - ・研修課長：研修の内容、進め方（KJ法）の説明・確認
 - ・保体課長：ヒヤリ、危険の例
- (2) **グループワーク①** 15:45～
 - ・11グループに分かれて校内の危険箇所の点検、共有。写真撮影、シールや付箋貼り付け
- (3) **グループワーク②** 16:30～
 - ・グループごとにKJ法により、仕分け
 - ・撮影したデータは共有フォルダに保存
 - ・ワークシートは掲示して情報共有
- (4) 後日学部で、グループごとに危険箇所を発表し、情報共有をする。
- (5) 撮影した危険箇所の画像をもとに、事務部で施設設備の改善を実施する。

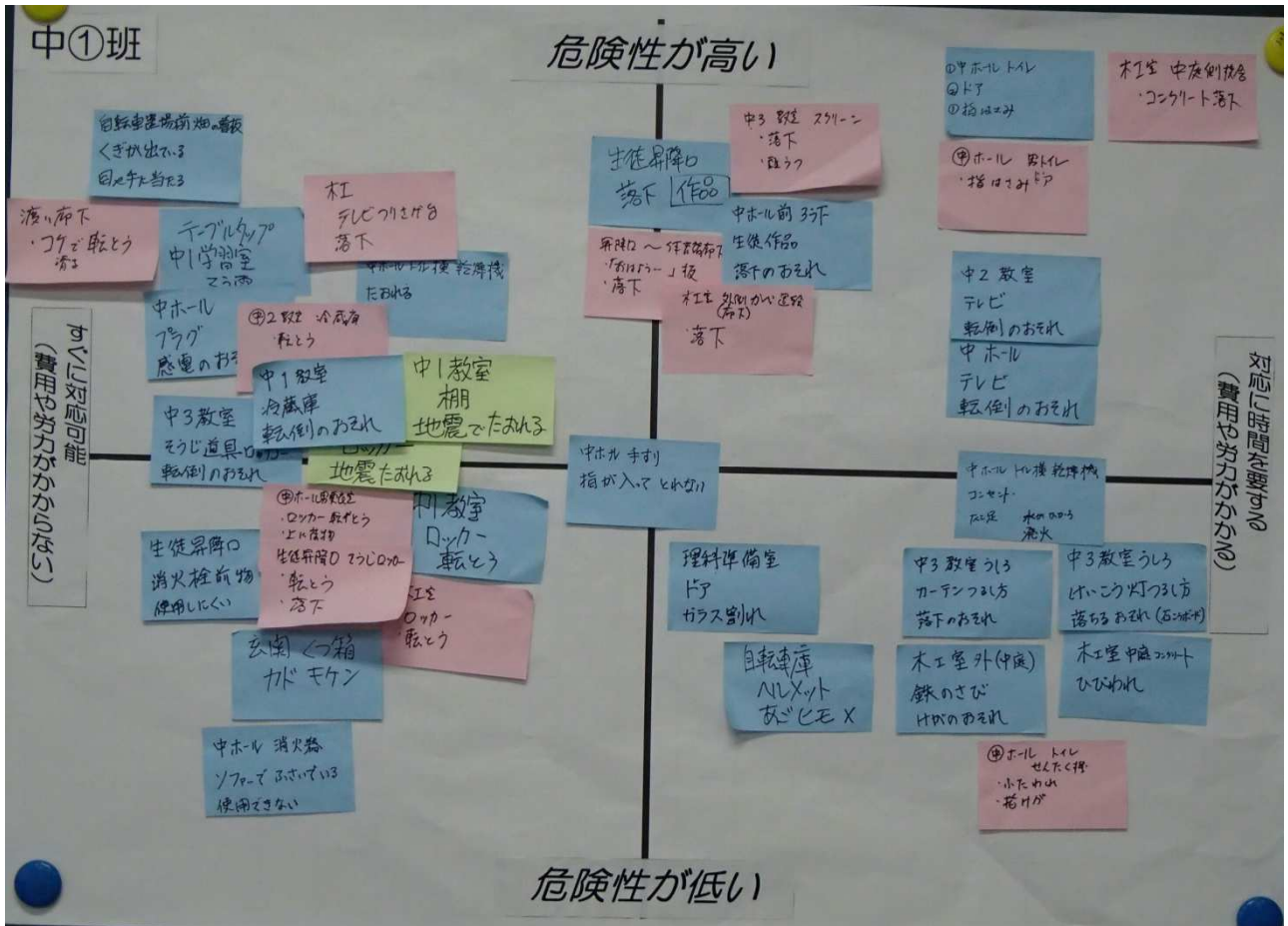




ペンキ剥げ



コンクリート落下



3 成果と今後に向けて

校内では、「安全点検」が月に一度、分担された教員によって点検を行っている。ただ、点検者が一人のため、思わぬ危険箇所気が付いていないのも現状であった。施設、設備の老朽化による様々な危険箇所を教職員で情報共有することは、「安心・安全な学校づくり」に欠かせないものである。本年度研修したことで教職員の危機管理意識の向上につながったものと思われる。また、安全点検にも新たな視点として生かされることと思われる。